

次第1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

次第2. あいさつ

次第3. 報告事項

(1) 第2次甲賀市観光振興計画第2期実施計画の進捗状況について

事務局： 資料1 第2次観光振興計画第2期実施計画【成果指標実績】について説明。

芳田委員： 観光入込客数について、この世の中の状況で、271万人をキープできているというのはすごいことだと思います。314万人という来年度の目標は、他の市と比べてみて、同じような数値になるのでしょうか。

事務局： 令和2年度の285万人については、県内の中では減りは少ない方です。甲賀市内には、全国3位の数を誇るゴルフ場があり、その利用者がほぼ横ばいだったことも影響し、減り幅が他市より少なかったと考えられます。しかし令和3年度については、他市と比べて当市の減り幅は少し多かったです。ゴルフについては、令和2年度より7万人増えていましたが、他の施設の減り幅が大きかったためです。初詣やお祭り等の入込客数が大きいイベントのタイミングが、緊急事態宣言と重なってしまって大幅に入り込み客数が減りました。

委員長： 観光消費額について、あまり減っていないということは、それほど多くないところの減りが目立って、逆にゴルフ場等の単価が高いところはあまり影響がない、ということがわかるのでしょうか。

事務局： 消費額については、日帰り単価と宿泊単価を入込客数に乗じているので、各施設の差はありませんが、14万人減の差が約7億円の差となっています。

委員長： 観光学の教員の言い方で言うと、おそらくそこには潜在的な魅力というよりも国が旅行を誘起する予算を出したことが大きいと考えられます。今後も、国は予算を準備して、世間的な雰囲気が変わった瞬間に、大きな額が動く可能性が高いと思われています。観光業にかかわる方々はこれ以上のV字回復があるのではないかと思っている人が多いと思います。それが甲賀市にどれくらい影響するかはわかりませんが、日本中の消費額というのは、一気にあがるとみんなが想像しています。

委員長： それでは、資料2について説明願います。

事務局： 資料2 第2次観光振興計画第2期実施計画【実施計画評価総括表】について説明。

委員長： 多くの部分でBが多いが、AとCではCの方が多く印象を受けます。これはモニタリングなので、なぜそうなったのかを理解することが大切だと思います。モニタリングが間違っているとダメなので、各委員でこの評価は違うのではない

か、というものはありますか。また、資料2と3について質問等がありますか。

率直に言うと、時代が急に変わってしまいました。例えばアウトドア関係が日本全体で非常に増え、影響がありました。先進地とされる地域がキャンプメーカーと組んで、大きいキャンプ施設を作ったりしています。この計画を作ったときにはそういう事業を想定していませんでした。そのような状況について、次の計画のときに考えようか、もしくは前倒しで考えようかということも考える必要があるかもしれません。

小山委員： ABCの評価について、もうすぐ見直しの時期ですが、見直しというのは数字の変更をするのでしょうか、それとも、計画自体の内容を削除したり追加したりするのでしょうか。

事務局： 今は12年間の第二次観光振興計画の中の第二期となります。今は、第二期の初年度の実施計画の進捗状況を確認していただいています。次回の計画の見直しについては、令和6年度に第三期に向けた見直しをします。それに向けて、各年度の進捗状況を確認いただいています。

小山委員： 現在行っている評価はどのように第三期の計画の見直しにつなげていくのでしょうか。

事務局： 令和3年9月に見直しをさせていただいたもので、ベースはこれでいこうと考えています。そのような流れの中でPDCAをまわしていくため、評価について内部だけで留まるのではなく、みなさまに確認いただいて、見直すべきところは見直していく必要があります。その際に、その影響はコロナの影響なのか、内容的に難しかったものなのか、を踏まえて、委員さんのご意見を参考にさせていただき、見直しの案を考えていきたいと思っています。

委員長： 当初も揺れ幅を想定して計画を策定していました。ただそれ以上の社会的変化がありました。同時に、何かがあったときにマネジメントする、団体について考えていく必要があると思います。それがDMOという形なのかは勉強をすすめていく形になると思いますが、大きく時代が変化したときに、甲賀市自体の観光の方向性のある程度決めるしくみとして、当時はDMOという扱いが大きかったと思います。時代が変わったときに誰が音頭をとるのか、考えていく必要があります。

また、計画の整合性で一番いいのは、全部Bというのが一番いいですね。計画通りに進んでいる。でもAがあるということは、想定しなかったことがあったということです。そのAを大事にする仕組みも今後考えてもいいと思います。他に質問やご意見はありますか。

山本委員： 昨年の実績で、着地ツアーの造成を7本としていますが、その実績について詳しく知りたいです。

事務局： 甲賀市観光まちづくり協会に、旅行業の資格を活用して7つのツアーを造成し

てもらいました。内容については、着地型ということで、薬を使った薬膳のツアー等、地元ならではの発想で観光まちづくり協会に造成いただきました。

委員長： ありがとうございます。他に何かありますか。

大河原委員： コロナ禍のなかで、準備ができていたかという話をお聞きしたいです。国際交流の仕事をする中でも、コロナ禍が終わるまでにいっぱい準備しておこうと思っていました。甲賀市の観光として、例えば、観光関係の看板に QR コードがついていますか、また看板自体にローマ字等の表示はされていますか。

事務局： 多言語表記については、正直なところ当市は遅れています。しかし、昨年については、鹿深夢の森や貴生川駅前等、設置している大きい観光案内看板に、QR コードを掲示しておいて、読み取っていただくとその施設の説明が7～8種類の言語で表記されるという整備を実施しました。ただ、全体としてのインバウンド受け入れ準備というのはまだまだ当市の弱い部分です。

大河原委員： 多言語の整備が進むと、観光客だけでなく、甲賀市に住んでいる外国人にもわかりやすくなると思います。それがどこに設置されているかという PR も実施してほしいと思います。

委員長： ありがとうございます。

他にご意見等ないようなので、次の次第にうつりたいと思います。

次第4. その他

・事務局より今後のスケジュール説明

次第5. 閉会

以上 14時50分終了